

渋谷サクラステージ SAKURAサイド

SHIBUYA SAKURA STAGE SAKURA SIDE

No. 16-063-2024作成

新築

事務所/物販/飲食/ホテル/集合住宅/保育所

発注者	渋谷駅桜丘口地区市街地再開発組合	カテゴリー				
設計・監理	戸田建設株式会社一級建築士事務所 TODA CORPORATION	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	戸田建設株式会社	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

渋谷の地形をめぐる歩いて楽しい回遊空間へ

桜丘地区の特性と役割

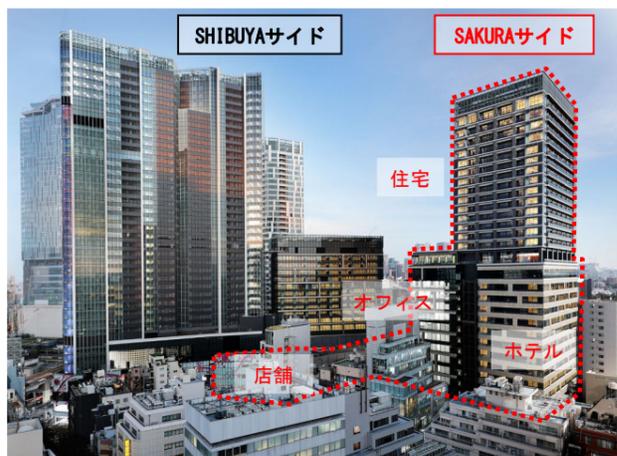
渋谷駅周辺では5つの街区で再開発が進められている。桜丘地区は国道246号が拡幅されて以降、渋谷駅前からは少し離れたエリアとなっていたが、本計画により地下階および地上の国道246号横断歩道橋レベルが直結したことで、駅を中心街区から桜丘口、さらにその周辺の地域にも繋がる大きな回遊性が生まれている。桜丘の一角が他のエリアと大きく異なるのは、ここを生活の場とする人々が多いことである。約3万人もの人々が働き、多くの人々が遊びに訪れるこのまちの大切なテーマは、訪れる人々にとって「めぐり歩いて楽しく」、ここに暮らす人々にとっては「住んで楽しいまち」となることである。多くの人に愛される建築とまちを目指して、新しい桜丘口地区の魅力を創り出すことをテーマにした計画である。

ゾーンのデザインと「SAKURAサイド」

「渋谷サクラステージ」は大きく2つのゾーンで構成されている。JR 渋谷駅側は都会的な「SHIBUYAサイド」、住宅地に繋がる西側は緑豊かな「SAKURAサイド」と名付けた。2つのゾーンの間に、「SAKURAストリート」と呼ばれる緩やかにカーブする1本の道が走っているのも、この再開発の大きな特徴である。2つの街区が道を挟む構成がまちを印象付けるものになっている。両街区にまたがる建築群が、あたかも大きな家族のように、また主に店舗などの入る低層部が、形に特徴のあるSAKURAテラスを含めてあたかも兄弟姉妹のように感じられるようにデザインしたいと考えた。

起伏ある地形を活かした「SAKURAサイド」

起伏のある地形を活かした「SAKURAサイド」は、タイルなどナチュラルな素材や左官工事を取り入れて、土の香りや自然の緑が感じられるゾーンとしている。地上5階建てのユーモラスな形の「SAKURAテラス」には、土地が隆起したような階段や店舗が連なる。奥には地上30階の「SAKURAタワー」が建ち、低層部にはさまざまな店舗、高層部には共同住宅が入る。中層部には事務所のほか、ホテルを配置した。特徴的な表情を持つ「光るトンネル」を通り抜けると、土の香りがするはぐくみSTAGE、桜丘の森などに至り、まちの中であって緑豊かなオアシスとなっている。



渋谷サクラステージの全景



SAKURAサイドの全景

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価		
所在地	東京都渋谷区	BEI値		0.71
竣工年	2023年	BPI値		0.85
敷地面積	8,478㎡	LCCO2削減		22%
延床面積	69,156㎡			
構造	RC造 S造 SRC造			
階数	地下1階、地上30階			

まちの文脈に合わせたグラデーションと緑化計画

JR渋谷駅と後背の住宅地につながるという異なるスケール感をもった街並みとの調和を目指した。都市的で大きなスケール感と土や緑の小さなスケール感へのグラデーションを意識したヴォリューム構成、外装計画、素材の選択を行った。また、照明計画においても商業エリアと居住エリアがうまく共存できるように工夫した。照明色温度が、商業エリアの「白い光」から居住エリアの「暖かい光」へ段階的に自然に移り変わる計画としている。その色温度の変化が、地形の高低差を活かした回遊空間をより記憶に残る個性的な空間としている。

省CO2と災害時のエネルギー自立の両立

発電所からの電力を3回線引込むスポットネットワーク受電を採用。SHIBUYAサイド、SAKURAサイドそれぞれに72時間稼働が可能な非常用発電設備を設置し、災害時でも安定した電力供給を行う。また、地域冷暖房施設を導入し、SHIBUYAサイドからSAKURAサイドへと熱供給を行うことで熱源の面的連携を行い、運転効率を高めるなどのエネルギー効率の向上を図った。

SHIBUYAサイド、SAKURAサイドの熱源設備の集中化にともなう運転効率の向上により、供給地域全体でのエネルギー節減を行った。個別冷暖房方式を採用する場合に比べ、年間CO2が約7,700トン削減できる試算である。各用途に適した省CO2技術を導入し、平時の省CO2と災害発生時の自立した電力供給の実現を目指した。

雨水・雑排水・厨房排水を原水として中水処理を行い、施設内のトイレの洗浄水や植栽への散水に再利用する計画としている。照明計画では、自然光を有効利用し人工照明の照度をコントロールするシステムの導入や点灯スケジュールの制御を行っている。

また、ヒートアイランド現象の緩和のために、地上、屋上、壁面を活用した立体的な緑化を推進し、SHIBUYAサイド、SAKURAサイドの合計で約6,000㎡の緑化空間を整備した。

地域貢献機能施設と災害時における帰宅困難者支援機能

街区再編と同時に多言語に対応した子育て支援施設や多言語対応の中長期滞在型ホテルを整備することで国際競争力を高める都市機能の強化に資する施設を整備した。また老朽化した小規模建築物の共同化等による防災性の向上をはかるとともに、災害時の情報発信等による安全安心な地区を形成した。広場や貫通路を一時滞在施設とし、周辺の再開発地区と連携し約4,900㎡の一時滞在施設を整備している。SAKURAサイドでは、敷地南側の広場は約1,000㎡の「物資供給等活動スペース」として災害時の空間を確保する計画とした。さらに、共用エリアの各所のデジタルサイネージを活用して災害情報や交通機関の運行状況を発信できるシステムを導入している。

設計担当者

建築：柳沢宗彦 村島大輔 渡辺忠 田中秀幸 片島雅彦 丸山耕平 吉井崇晃 今吉浩一郎 奥田美香子 柳直登 大井雅史 大原こころ 宇根本真 山田和也/構造：清水隆 中村匠 栗本耕太郎 川村将文 知野裕和 森悠吾 釣賀達稀/設備：福田秀雄 毛利広宇 酒井由香里 磯部達夫 細川幸哉 小林秀樹 町田智幸 永井裕之 橋本早紀 濱野敏嗣 山田一貴 小野寺和久 濱野加奈子

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (BCP計画、帰宅困難者支援機能)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (屋上庭園・緑化、立体街路)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (まちのにぎわいと人々の流れを建物に引込む立体街路)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制 (Low-Eガラスによる外気負荷低減)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (太陽光発電)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (コージェネレーションシステム)



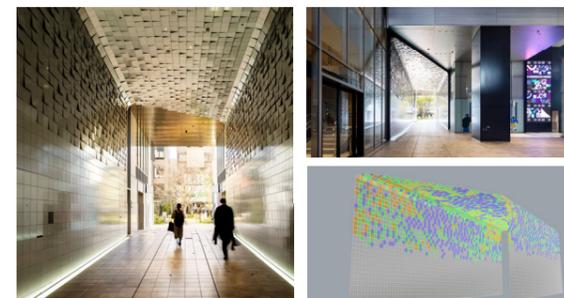
渋谷サクラステージの低層共用部



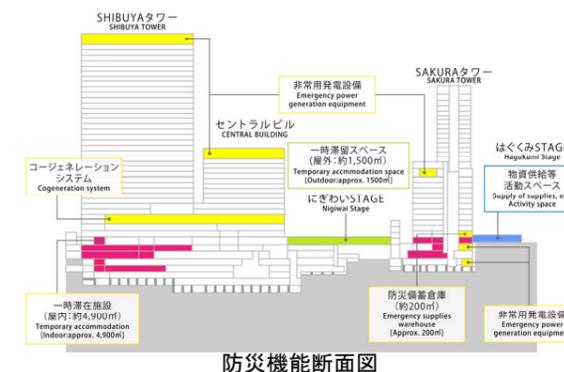
地形を活かす建築計画



地面が隆起したような階段



広場をつなぐ「光のトンネル」



防災機能断面図